

広報 はちおうじ

海洋プラスチックごみ削減特集号

発行/八王子市 〒192-8501 元本郷町三丁目24番1号
編集/資源循環部ごみ減量対策課 ☎620-7256(直通) ☎626-4506
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/gomi/index.html>



なくそう!! 海洋プラスチックごみ

～今、私たちにできること～

今、世界中の海で、私たちの暮らしの中から出るプラスチックごみが問題となっています。

プラスチックごみが海洋を汚染し、海洋生物に深刻な影響を与えています。

海洋プラスチック問題を知り、海から離れた私たち八王子市民にできることを考えてみませんか？



海のない八王子市に住んでいる私たちには実感がないかもしれませんが、今、世界中の海でプラスチックごみが問題となっています。

このまま増え続けると2050年には海洋プラスチックごみの量が魚の量を上回ると推計されています。(2016年世界経済フォーラム年次総会報告)



2050年には海洋プラスチックごみが魚よりも多くなってしまおうって本当？



「海に遊びに行ってもごみは持ち帰るので、自分は関係ない」と思われるかもしれませんが、この問題はわたしたちの日々の生活での行動が原因の一つと言われています。海洋プラスチックごみの問題について知り、きれいな海を取り戻すため、私たち一人ひとりが出来ることから始めていきましょう。

1. 海洋プラスチックごみって何？

プラスチックは軽量で形状を変化させやすく丈夫であることから、私たちの生活のあらゆる場面で使われています。また、安価で手軽に使える大量生産されるため、使い捨てやポイ捨てにつながり、ごみになる量も非常に多くなっています。

海のごみとなっているプラスチックは、実は陸からやって来ると言われています。ごみ箱に捨てられずポイ捨てされたり、不法投棄等により適正に処理されなかったりしたもの、また、屋外に置かれたカラーコーンなどプラスチック製品の破片が、雨や風によって河川に入り海に流れ出ています。

海洋プラスチックごみは、私たちの行動が原因で発生しているのです。



海洋プラスチックごみへの対応は、SDGs(持続可能な開発目標)においては目標12と目標14の達成に貢献する取り組みになります。

海に流れていくプラスチックごみ



2. 何が問題なの？ 専門家に聞いてみました！

海洋プラスチックごみにはペットボトル、レジ袋、プラスチックトレイなどシングルユースプラスチック※1が多く、また、その中でも5mm未満のマイクロプラスチックとしては、踏まれてちぎれた人工芝、農業のカプセルなどが多くみられます。

これらは、ポイ捨てをはじめ、プラスチック製品(例、洗濯バサミ)のかけらや、袋に入れて出したごみを鳥や猫が散らかしたものなどから発生しています。さらには、家から洗濯で出た衣服の繊維やマイクロビーズなどが下水道に流れマイクロプラスチックとなっています。

人間の体内にもプラスチックが

プラスチックは分解しません。小さく砕けると、餌と間違えて魚や鳥が食べてしまい、体内に蓄積されます。そして、食べられたプラスチックから有害物質が魚や鳥に移ってしまいます。そうした魚を食べれば、私たち人間の体内にもプラスチックが入り込む可能性があります。

マイバッグなど替えられるものから見直しを

これ以上海洋プラスチックごみを増やさないために、まずはシングルユースプラスチックを使わないことが大事です。日本人は、プラスチックを世界で2番目に多く捨てています。その量は、一人当たり年間32kg※2となり、1日に換算するとペットボトル2本、レジ袋3袋、食品トレイ2個分に相当します。日常生活を見直すことで、すぐに半分以下に減らせると思います。マイバッグやマイボトルなど、替えられるものからプラスチック製品の使用を見直してみるといいですね。



東京理科大学理工学部 土木工学科 二瓶泰雄教授 (写真は昨年11月に開催された八王子市での講演の様子)

※1 シングルユースプラスチック：1回しか使わず捨てられる使い捨てのプラスチックのこと

※2 UNEP(国連環境計画)報告書(2018年6月)

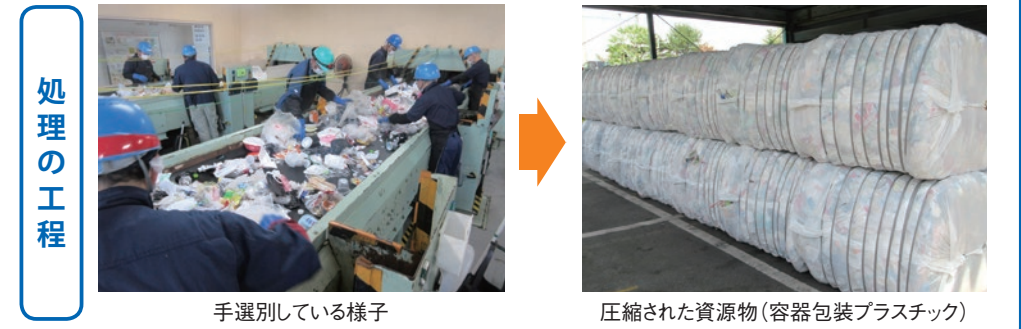
3. できることから始めてみよう！

海洋プラスチックごみを出さないために私たちができること

- ①プラスチックごみはルールに従って、分別して出す
- ②ポイ捨てはしない
- ③レジャーのあとはごみを持ち帰る
- ④清掃活動に参加する
- ⑤買い物にはマイバッグを持参する
- ⑥マイボトル、マイ箸を持ち歩く
- ⑦ごみの少なくなるものを選んで買う
- ⑧お店でプラスチック製スプーンなどをもらわない
- ⑨プラスチック製ストローの使用は控える
- ⑩天然繊維の服を選んで買う

出したプラスチックはどうなるの？

皆さんが出したプラスチックはどのように処理されていくのでしょうか。戸吹町にある「プラスチック資源化センター」では、市内から集められた容器包装プラスチックとペットボトルを、機械と人の手によってリサイクルできる材料に選別して再生工場に送っています。再生工場では送られてきた物をペットボトルや卵パックなどにリサイクルしています。



処理の工程

手選別している様子

圧縮された資源物(容器包装プラスチック)

まちをきれいにする取り組みが 海洋プラスチックごみ問題の解決につながります

みんなの町・みんなの川の清掃デー

美しい八王子をつくる会では、各町会・自治会及び各種団体の協力を得て、市内の美化活動として春と秋に市内の一斉清掃を行っています。近年は、趣旨に賛同するグループや大学生の参加もあり、広く市民に浸透してきています。

○みんなの町の清掃デー

5月30日の「ごみゼロデー」に合わせて直近の日曜日に、ごみ・空き缶・ペットボトル等を回収するとともに、地域の美化を推進する活動をしています。

○みんなの川の清掃デー・秋の町の清掃デー

9月の第一日曜日に浅川を始めとして、市民の憩いの場となっている市内の各河川の堤防周辺や町中の草刈り、ごみ・空き缶・ペットボトル等の回収を行い、地域の美化を推進する活動をしています。

※両事業とも今年の市内全域での活動は中止となりました。

若い方も気軽に参加を!

春と秋に行っている清掃デーで、各町会・自治会や各種団体の協力を得て、八王子をきれいにしています。子ども会、婦人会やシニアクラブも参加していて、みんなで力を合わせて清掃しており、海の美化にもつながっています。

年代を超えて、この運動を広げていきたいと思っています。若い方も気軽に参加してください。



美しい八王子をつくる会
小室崇司会長

問い合わせ 美しい八王子をつくる会事務局
ごみ減量対策課 (☎620・7256、☎626・4506)

環境市民会議

環境市民会議は、市内で6つの地区に分かれ、市民・事業者の皆さんが主体的に環境保全活動を実施し、地域の身近な環境を良くしようと日々活動しています。

川で行う環境教育の支援をはじめ、水質・生物調査や河川

の清掃などを行っています。

一緒に活動していただける仲間を募集しています。地区内に在任・在勤・在学の方ならどなたでも参加できますので、皆様のご参加をお待ちしております。

問い合わせ 環境政策課 (☎620・7384、☎626・4416)



水生生物の調査



川の学習の様子



自然体験講座の様子



南浅川の清掃

マイバッグ利用促進

本年7月より全国的にレジ袋の有料化が始まりました。これはポイ捨てなどが原因で海に流出する「海洋プラスチックごみ問題」や「地球温暖化」などの解決に向けた第一歩として実施されるものです。

本市では不要なレジ袋の削減のために市民・事業者と協働でマイバッグの利用を呼びかけてきました。マイバッグの利用は、子どもから大人まで誰でもできることのひとつです。今後も、ご協力をお願いします。

問い合わせ ごみ減量対策課 (☎620・7256、☎626・4506)



店内活動の様子



国際協力事業

本市は2017年度から3年間、JICA(独立行政法人国際協力機構)の草の根技術協力事業として、ミクロネシア連邦チューク州でのごみ問題改善に取り組み、海洋プラスチック問題の一因となるレジ袋の使用を減らすための啓発活動等を行いました。

また、市内小・中学校等へ講演を行い、本事業を紹介しています。児童たちは、海洋プラスチック問題をはじめ、ごみ減量について考え「みんなで八王子やミクロネシアをきれいに、気持ちのいい場所にしたい」「絶対ポイ捨てはしない」などの声が寄せられました。

問い合わせ ごみ減量対策課 (☎620・7256、☎626・4506)



現地NGOの清掃活動



マイバッグの利用を促す
イベントを実施